

佳作

「倒れてもまだ飛べる」

岩手県久慈市立長内中学校

3年 川畑 彩音

私はこれまで何度もくじけそうになったことがあります。しかし、「音楽」と「母」に力をもらうことで頑張ることができました。

私は、音楽が大好きです。音楽にはたくさんの力があると思っています。例えば、日本語以外の言語を話す人でも、日本語の歌に感動したり、英語の歌だろうとも日本人が口ずさんだりすることがあります。たとえ言葉や歌詞の意味が分からなくてもつながることができる素晴らしいものです。

私は、中学校で委員会の委員長を務めています。慣れないことも多く、緊張しながら仕事をするので、帰るころにはへとへとになってしまいます。疲れがたまり、嫌になりそうな時、音楽を聴くことで頑張ることができました。私の好きなアイドルの曲には、

「倒れてもまだ飛べるよ」

という歌詞があります。倒れそうなくらい大変なことがあっても、この曲を聴くことで、「明日も頑張ろう」と思い直すことができます。音楽を聴いていると、エネルギーが湧いてくるのです。

また、私は走ることが苦手です。運動会の時は、リレー競技があり、あまり気持ち前向きになりません。そんな時、競技の裏で流れている音楽を聴くと、いつもより速く走れるような気がします。

くじけそうな時だけでなく、明るい気持ちになりたい時は明るい曲、気持ちが沈んでいる時は静かな曲。そのように音楽を聴くことで常に励まされています。

私が音楽を聴くようになったきっかけに母の存在があります。母は、明るく、太陽のような人です。私に元気がない時でも、母を見ると元気が湧いてきます。母は、しなければならないことに対しては厳しく教えてくれます。しかし、私がしたいことに関しては、

「何をしてもいいよ」

と言って、私のしたいことに対して応援してくれる人です。私は面倒なことをつい後回しにしてしまいがちですが、母は面倒がらずに毎回声をかけ、見守ってくれています。

母が好きな音楽は元気の出るような明るい曲が多いように思います。母も明るい人なので、聴く音楽も明るいものが多いのかな、と思っています。母が楽

しように音楽を聴くので、母の影響で私も音楽が好きになりました。音楽にエネルギーをもらっている人は、周りの人をまた元気にできるものなのだと感じています。

歌は聴くだけでなく、自分が歌うことでも想いを伝え合い、元気をくれます。

私は合唱部で活動しています。特設部なので練習時間はわずかです。しかし、学年を超えて音楽が好きな人が集まるので、短くても充実した時間を過ごしています。

以前、ハーモニーフォーアジアというイベントに合唱部が招待されたことがあります。会場は京都府で、東北の代表として歌を歌う機会をいただきました。私は、京都に行くことができるという喜びとともに、歌によってさまざまなことを考えるきっかけを得ました。

私たちは『群青』という曲を歌いました。この曲は、震災で離れ離れになってしまった人たちの想いが込められた曲です。私たち自身は、震災のころは2歳だったので、被害のことは覚えていませんが、音楽の先生が教えてくれた当時のこと、当時の人々の想いを想像しながら練習に励みました。そして、本番では、最高の演奏ができたと思います。すると、退場する時に観客席から「良かったよ」という声が聞こえてきました。その人は、私たちの歌を泣きながら聴いてくれていたのです。その時、私たちの歌った歌でも、知らない人の歌でも、誰かに感動を与えることができるのだと感じました。

それから、全校での合唱や学級合唱など、学校のさまざまな場面で歌いますが、練習の時から一緒に歌う仲間の想いや、曲に込められた想いを考えながら歌うようになりました。

文化祭の学級合唱で、母が私の歌を聴きに来てくれました。すると、「めっちゃ良かったよ。彩音の声がはっきり聴こえてきた。」と感想を言ってくれました。いつも私に元気をくれる母に、今度は私が母に想いを伝えることができたと思い、うれしかったです。

「音楽」や「歌」には、誰かに想いを伝えたり、聴いている誰かを励ますエネルギーがあります。そして、音楽によって元気づけられた人は、また、誰かを元気づけることができます。

私はこれからも音楽に元気をもらい、音楽を通して得たエネルギーで誰かを励ましたいと思います。そして、音楽を通して元気の輪を広げていけたら、と思っています。